

【ポスター発表】

矯正におけるソーシャルワーク実践の現状と課題

—自由記述データのテキストマイニングから—

○ 健康科学大学 渡邊 隆文 (009182)

鷺野 明美 (健康科学大学・008030)

[キーワード] 矯正、ソーシャルワーク、テキストマイニング

1. 研究目的

本研究では、矯正施設に配置されている福祉職が行うソーシャルワーク実践の現状と課題を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本調査で、「矯正施設の福祉職として業務を行うにあたり、困っていること、問題・課題であると考えていることなどについて、それらに関して工夫していることなども含め自由に記述してください。」と質問し、自由記述による回答を得た。

分析では、矯正領域のソーシャルワーク実践の現状と課題を明らかにするために、量的調査によって得られた自由記述に対してテキストマイニングを行った。得られたデータを意味のある段落ごとに分けたものを1件の分析単位として、291件の分析単位が設定された。分析単位をIBM SPSS Text Analytics for Surveys 4を用いて、形態素解析を行い抽出された語彙に対して、言語学的手法を用いてカテゴリの作成を行った。作成されたカテゴリ間の関係性について検討するため、IBM SPSS Statistics Ver.25.0を用いてコレスポネンダンス分析を行い、分析結果を解釈した。

3. 倫理的配慮

配慮については、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき実施した。加えて、健康科学大学研究倫理委員会の承諾を得た（承認番号第28号）。

4. 研究結果

(1) 回答者および施設の基本属性

回答者および施設の基本属性は以下の通りであった（表1）。

表1：回答者の基本属性

性別	男性	17	施設種別	刑務所	57
	女性	67		社会復帰促進センター	3
年齢	20歳代	3		少年刑務所	7
	30歳代	26		拘置所	1
	40歳代	26		少年院	17
	50歳代以上	27		不明	1

(2) 抽出されたコンセプト

291 件の分析単位に対する形態素解析の結果、1690 の語彙が抽出された。抽出頻度の多かった語彙としては、「ある」、「思う」、「社会福祉士」という語彙が多く抽出された。

(3) 作成されたカテゴリ

言語学的手法を用いてカテゴリの生成を行い、加えて、手動でカテゴリの作成・追加・削除を行った結果、15 カテゴリが生成された (表 2)。

表 2 : 言語学的手法を用いたカテゴリの生成結果

業務(19:119)	福祉職(17:115)	社会資源(47:80)	組織(33:79)	矯正施設(11:79)
クライアント(19:77)	困難(37:58)	雇用(17:55)	支援(5:44)	連携(19:43)
問題(19:39)	福祉(4:32)	専門性(9:25)	地域社会(5:23)	勤務(8:18)

(4) コレスポネンス分析の結果

カテゴリ間の関係性について検討するために、生成された 15 カテゴリに対してコレスポネンス分析を行った (図 1)。「勤務」「雇用」が集まって布置されており、これを「矯正の福祉職の勤務及び雇用の現状」と解釈した。次に、「福祉職」「組織」「問題」のグループは「矯正の福祉職が組織内で抱える問題」と解釈した。そして、「矯正施設」「業務」「専門性」のグループは「矯正施設における福祉職の業務および専門性の実際」と解釈した。加えて、「社会資源」「連携」「福祉」「支援」のグループは「福祉的支援による社会資源との連携の現状」と解釈した。最後に、「クライアント」「地域社会」「困難」のグループは「矯正の福祉職がクライアントを地域社会へ復帰させる際の

困難」と解釈した。

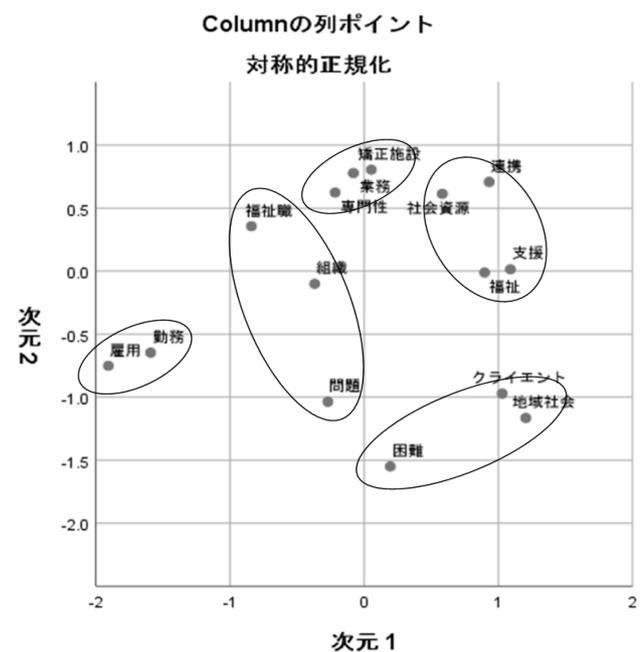


図 1 : コレスポネンス分析結果

5. 考察

- ① 矯正の福祉職に対する理解の拡充：他職種や関係機関からの矯正の福祉職の業務や専門性に対する理解が十分とは言えないため、周囲に対して理解を得る必要が示された。
- ② 矯正施設内外の連携強化：矯正の福祉職が支援を行う上で、矯正施設内の他の専門職や部署、他の矯正施設、地域の関係機関等との連携強化の必要性が示唆された。
- ③ 勤務・雇用の安定化：矯正の福祉職として専門的業務を行うなかでの勤務状況や雇用形態の不安定さが指摘されており、課題が示された。

[付記]本研究は、JSPS 科研費(基盤研究 C)15K03977(研究代表者:鷺野明美)の助成による。